

会報

No. 97

平成29(2017)年9月15日

http://www.library.pref.kyoto.jp/?page_id=28

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町

京都府立図書館内

TEL (075) 762-4655

<目次>

1 面

・市町村立図書館での「国立国会図書館デジタルコレクション」の活用
(国立国会図書館関西館)

2～3 面

・京都府立京都学・歴史館が
グランドオープンしました
(京都府立京都学・歴史館)
・図書館でのSNSの利用
(府立図書館)

4 面

・京都府図書館等連絡協議会事業
・研修予定

市町村立図書館での 「国立国会図書館デジタル コレクション」の活用

国立国会図書館関西館 鳥澤 孝之

○国立国会図書館

デジタルコレクションの内容

国立国会図書館デジタルコレクション
<<http://dl.ndl.go.jp>>では、国立国会図書館（NDL）等の所蔵資料をデジタル化し、インターネットで提供しています。

資料は、それぞれの利用条件に従い、次の三つの公開範囲で提供しています。いずれも無料で見ることが出来ます。

①インターネット公開

(約五十三万点)

著作権等権利状況に問題がないことが確認できたもの。

②図書館送信資料(約百四十九万点)

インターネット公開していない資料のうち、絶版等で市場での入手が困難な資料。「図書館向けデジタル化資料送信サービス」(図書館送信)に参加している図書館で利用(閲覧のみ又は閲覧・複写)可能。

③国立国会図書館内限定

(約六十四万点)

上記に当てはまらない資料。NDL(東京本館・関西館・国際子ども図書館)の施設内でのみ利用(閲覧・複写)可能。

○国立国会図書館

デジタルコレクションの特長

NDLが所蔵する図書、雑誌、博士論文、官報等のデジタル化資料を利用できます。写真のように、京都府に関する資料も豊富にあります。



The Prostitutes at Shinshara (The Prostitute quarter) Kyoto
中道夫木源崎邸蔵
小林忠治郎『京都名勝』(小林写真製版所 1907年)
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/765631>

雑誌は主に平成十二年までに刊行された資料を収録し、記事のタイトルからも検索できます。戦後の雑誌のバックナンバーは、カラーで見ることが出来ます。

No.	質 問	回答作成のために活用した主な資料
1	第3代京都府知事北垣国道氏の長男の北垣確の写真を見たい。 登録番号: 1000184328	恒次夏三郎編『御大礼記念写真帖 第1巻』大典記念出版協会(1916年) 東洋新報社編『大正人名辞典 3版』東洋新報社(1917年)*
2	俳優・大河内伝次郎の京都・嵐山の別荘について、建築や文化財関連の情報がほしい。 登録番号: 1000217252	中村昌生「近代の数寄屋(52) 大河内山荘」『新住宅』39巻441号(1984年2月)67-72頁 中村昌生「近代の数寄屋(53) 大河内山荘」『新住宅』39巻442号(1984年3月)67-72頁

(注) 表内の資料は全て「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の参加館で閲覧できます。*印の資料は、インターネットでも閲覧できます。「質問」に記載されている「登録番号」は、「レファレンス協同データベース」の「レファレンス事例」のものです。

国立国会図書館デジタルコレクションは、図書館のレファレンス・サービスの有力なツールにもなっています。全国の図書館のレファレンス事例を蓄

また、インターネット上で公開された白書、年鑑、報告書、広報誌、雑誌論文等、約四十三万点の電子書籍・電子雑誌も収録しています。

○レファレンス・サービスでの 利活用

積した「レファレンス協同データベース」〈<https://cid.ndl.go.jp/reference/>〉には、国立国会図書館デジタルコレクションを活用して資料を紹介した事例が多数あります（前頁表参照）。

また、「地域の歴史に関する資料（都道府県）」〈<http://dl.ndl.go.jp/ja/local/history.html>〉のページを利用すれば、京都府を始め、全国各地の郷土資料等の歴史に関する資料をワンクリックで検索できます。

目次情報も検索できるため、一般的な書誌データでは探せなかった資料を発見することができたという御報告も多くいただいています。

○「図書館向けデジタル化資料

送信サービス」への参加方法

国立国会図書館デジタルコレクションの図書館送信資料を各図書館で利用するには、「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の参加館になる必要があります。平成二十九年七月一日現在、全国各地から八百二十館が参加しています。「図書館向けデジタル化資料送信サービス参加館一覧」〈http://dl.ndl.go.jp/ja/soshin_librarylist.html〉の「都道府県立図書館」の政令指定都市立図書館のほか、市町村立図書館も多く参加しています。平成二十八年中の利用件数は、全体で閲覧十七万千六百九十二件、複写

八万四千五百五十四件で、年々増加しています。このサービスに参加すれば、各参加館の登録利用者のみならず、規模の大きな都道府県立図書館の蔵書点数に匹敵する約二百万点のデジタル化資料を利用できます。

参加館になるには、NDLに利用登録の申請手続をする必要があります。通常は一〜二か月あれば手続が完了します。手続の確認内容は、希望する利用が「閲覧のみ」か「閲覧・複写」であるかによって異なります。NDLは「デジタル化資料送信サービスお問合せ窓口」を設けて、全国各地の図書館からの申請手続、参加後のサポート、その他サービスに関する御質問を一括して受け付けています。

このように閲覧できる資料が増え、レファレンスにも大いに活用できるサービスです。詳しくは次のお問合せ先まで、お気軽に御連絡ください。御参加をお待ちしています。

【お問合せ先】

国立国会図書館デジタル化資料送信サービスお問合せ窓口

（関西館文献提供課複写貸出係内）

TEL：(0774) 98-1330（直通）

E-mail：digi-soshin@ndl.go.jp

http://www.ndl.go.jp/jp/library/service_digi/

京都府立京都学・歴史館が グランドオープンしました

京都学・歴史館 菊池 信彦

平成二十九年四月二十八日に京都府立京都学・歴史館（以下「歴史館」という。）はグランドオープンしました。グランドオープン前日には、記念シンポジウム「京都の文化―京都学・歴史館からの発信―」を開催しました。シンポジウムでは、細川護熙氏（公益財団法人永青文庫理事長）による基調講演をはじめ、片山信子氏（国立国会図書館関西館館長）と神居文彰氏（平等院住職）、シュテファン・カイザー氏（元ロンドン大学アジア・アフリカ研究院日本研究センター長）らによるパネル・ディスカッションもあり、史料の保存整理や公開の重要性を論じ合う大変盛況なイベントとなりました。

そして、多数の利用者でにぎわったグランドオープン初日は、カウンターでも多くのレファレンス質問が寄せられるなど、旧京都府立総合資料館（以下「旧資料館」という。）閉館後のサービス休止により御不便をおかけしたことを痛感するとともに、職員一同歴史館へ寄せられている大きな期待を感じました。閉館中は休止しておりました図書館間の協力、K-Libnetの横断検

索、歴史館からのレファレンス回答及び相互貸借業務は全て再開しておりますので、ぜひ御利用ください。

さて、歴史館は、本誌九十六号で御案内のとおり、平成二十八年十二月二十三日に一部オープンしておりましたが、この度のグランドオープンによって、一階の学習室と京都学デジタル資料閲覧コーナー、二階の探究フロアを新たに公開しました。本稿では、グランドオープン以降に利用可能となった各フロアを中心に御紹介します。

一階の学習室は八十四席あり、自由に御利用いただけます。また、同じく一階にある京都学デジタル資料閲覧コーナーでは、東京大学史料編纂所の御協力のもと、西日本で初めて閲覧可能となった陽明文庫所蔵資料のデジタルデータを御利用いただけます。このコーナーでは、ユネスコ「世界の記憶」に登録された国宝「御堂関白記」をはじめとする近衛家伝来の貴重な資料群のデジタルデータ約五万コマを閲覧することができ、す（要事前申請）。

二階の探究フロアには、



学習室

旧資料館の蔵書を引き継いだ京都資料総合閲覧室があります。閲覧室には図書・雑誌資料等約二万点を配架しており、旧資料館時代を含め当館に関する資料を集めた歴史館本コーナーや、京都府内の行政地理区分ごとに京都の歴史・地誌を集めたコーナーなどがあります。これらの開架資料は閲覧席(百二十七席)で自由に御利用いただけます。そのほかに、情報検索コーナー(十一席)があり、歴史館の所蔵する図書・雑誌、古文書、行政文書等の各種資料の検索はもちろん、デジタル画像の閲覧もできる「京の記憶アーカイブ」、京都関係の新聞データベースなどを提供しております。

また、カウンターで資料請求していただくことで、書庫にある図書・雑誌資料や京都府の行政文書、古文書等約六十八万点も御利用いただけます。閲覧室には、行政文書や古文書、貴重書等を優先的に利用するための閲覧席を御用意しております。

なお、京都資料総合閲覧室と同じ二階には、京都府立大学及び医科大学附属図書館もあるため、それぞれの所蔵資料を閲覧することが可能です。

四月のグランドオープン後は一日平均約七百人が来館され、旧資料館時代の約三・五倍の利用者数となっております。二階の閲覧室では徐々に落ち着きを取り戻しつつあり、静謐な閲覧環

境を御提供できるようになりました。一階の学習室は、平日の午前中は比較的席に余裕があるものの、午後から夕方にかけて中高生を中心に利用が多い状況です。土日時期によっては午前中から満席近くなることもあり、混み具合によっては一階の小ホールも臨時の学習室として開放しています。



京都資料総合閲覧室

二階の閲覧室は、平日、土・日曜ともに昼前から夕方にかけて利用者が多くなる傾向にあります。平日の夕方から夜九時の閉館までは比較的ゆったりと御利用いただけます。カウンターには京都に関するレファレンスや資料の問合わせが多く寄せられています。

歴史館の所蔵する特徴的な資料群と学習環境を求めて、近隣の中高校生や学生から社会人、高齢者まで、幅広い世代の方から日々多数の御利用をいただいています。旧資料館時代以上に充

実した資料とサービスを提供できるように努めてまいりますので、文字どおり新しく生まれ変わった歴史館を、末永くよろしく願います。

開館日…平日 九時～二十一時

土日 九時～十七時

※資料によって出納及び複写受付時間が異なります。

休館日…祝日法に規定する休日及び毎月第二水曜日。年末年始。蔵書整理期間等。

図書館でSNSの利用

京都府立図書館 島村 聡明

今年度四月号の「図書館雑誌」(日本図書館協会)でも特集が組まれたように、図書館での、いわゆるSNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)を活用した情報発信や広報は、今やそれほど珍しくないものになっています。とはいえ、比較利用が活発な大学図書館と比べると、公立図書館のそれは、まだまだごく普通になっているとは言えない状況ではないでしょうか。

実際、当館(京都府立図書館)の場合も、個人的にSNSを通じて活発に情報を発信している職員はいるものの、未だ、館としての公式のSNS運

用は始められていない状況です。

さらに、京図連協の加盟館である府内の公共図書館・読書施設を見渡しても、各館のWebサイトを確認する限り、少なくとも公式にSNSのアカウントで情報を発信している施設はないようです。

一方、全国の動向については、「図書館雑誌」の特集にも掲載されていますし、例えば、今年に入ってから福井県立図書館が全国の都道府県立図書館に行ったアンケートの結果を見ると、都道府県立図書館四十七館のうち、調査時点ではなんらかのSNS(Facebook・Twitter・LINE・mixi・Instagram・Google+・YouTube)を利用している図書館が二十三館、複数のSNSを使っている図書館は十館という結果になっています。

公立図書館でのSNSの活用がそれほど伸びないのは、一体、どのような理由があるのでしょうか。

SNSの大きな特徴が即時性(リアルタイム性)や双方向性(他のユーザーとのコミュニケーション)にあるとすると、館外に何らかのコンテンツを発信する場合、一般的に所属長の決裁を必要とする公立図書館の場合、情報発信の機動性に欠けるという面は大いにあります。また、それに加えて勤務体制の関係もあり、個人での利用に比べると、いずれの特徴も生か

すのが難しい部分があります。

そこで、図書館でSNSを利用して
いる場合でも、事前に決まっているイ
ベント等の告知が中心になったり、あ
らかじめユーザへのリアクションはし
ないことを運用ポリシーで決めておく
ことになるようです。

ただ、そのような中でも、特集で
取り上げられている国立国会図書館
のTwitter、アカウントのように多くの
フォロワを獲得している例はあります
し、効率的な情報発信を目指して工夫
されている公立図書館もあります。

一ユーザの立場で見ると、一度登録
さえしておけば、日頃使っているSNS
に自分が使っている図書館の情報が
自動的に送られてくる(タイムライン
に表示される)のは、やはり便利だと思
いますし、一方の図書館サイドとし
ても、ことあるごとに「情報発信」を
求められる昨今、運用ルールさえ決め
ることができれば、非常にコストパ
フォーマンスのよい情報発信ツールだ
と言えらると思います。

もちろん、無理をしてまで使う必要
はないのかもしれませんが、それでも
我々の普段の生活での浸透度や便利
さ、また、他の社会的セクタの利用状
況・利用実績を見ると、やはり図書館
としてのSNSの利用を今後考えてい
かなければならないのではないでしょ
うか。

平成二十九年 京都府図書館等連絡協議会事業

【今年度の開催実績】

四月十二日(水)

第一回理事会(府立図書館)

四月二十六日(水)

定期総会(府立図書館)

功労者(団体)表彰



表彰式の模様

六月一日(木)

第一回京都府図書館大会実行委員会

(府立図書館)

六月二日(金)

相互協力委員会(府立図書館)

六月八日(木)

広報委員会(府立図書館)

六月十四日(水)

研修研究委員会(府立図書館)

八月七日(月)

第二十六回京都府図書館大会

(同志社大学寒梅館)

※台風5号の影響のため中止

【しおりコンテスト】

第六回子ども読書

本のしおりコンテスト

(府教委との共催事業)

◎表彰式

日程 十一月五日(日)

会場 ルビノ京都堀川

◎巡回展示 巡回順路を調整中

平成二十九年 研修予定

【京図連協主催の研修】

◎北部会場

日程 十一月三十日(木)

会場 宮津市歴史の館

テーマ 乳幼児サービス

講師 落合 美知子氏

(「おはなしとおんがくの
ちいさなおうち」主宰)

◎中部会場

日程 十月六日(金)

会場 京都府立京都学・歴史館

テーマ 「京都学・歴史館の目指す
もの」(仮)

講師 金田 章裕館長

◎南部会場

日程 十一月十六日(木)

会場 京田辺市立中央図書館

テーマ 児童サービス

講師 川上 博幸氏

(元枚方市図書館職員)

【その他の研修】

第百三回全国図書館大会東京大会

「まちづくりを図書館から」(仮)

日程 十月十二日(木)～十三日(金)

会場 国立オリンピック記念青少年
総合センター

全国公共図書館研究会

(サービス部門総合・経営部門)

「もつと地域の中に図書館をー図書館
の多様化する社会的役割ー」

日程 十一月三十日(木)

～十二月一日(金)

会場 東京エレクトロンホール宮城

同研究集会(児童青少年部門)

「子どもをとりまく社会環境について
図書館ができること」

日程 平成三十年一月十八日(木)

～十九日(金)

会場 大阪府立中央図書館

図書館地区別研修(近畿地区)

日程 平成三十年二月六日(火)

～九日(金)

会場 神戸市教育会館

Ⅱ会報をホームページに掲載Ⅱ

第九十七号を、京都府図書館等連絡

協議会のホームページ(URLは一

面参照)に全文掲載しています。